

福島河川国道事務所のホームページでは、リアルタイムで吾妻山の様子をごらんになれます。



### 吾妻山山系砂防出張所松川庁舎（吾妻山火山防災センター）位置図



吾妻山山系砂防出張所 松川庁舎  
(吾妻山火山防災センター)

〒960-2261 福島市町庭坂字遠原三3-4

TEL 024-591-1207

吾妻山山系砂防出張所

〒960-2156 福島県福島市荒井字地藏原甲2-14

TEL 024-593-0831

国土交通省 東北地方整備局  
福島河川国道事務所

〒960-8584 福島市黒岩字榎平36

TEL 024-546-4331~4336

ホームページアドレス

<http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/>

福島河川国道事務所



# 吾妻山

吾妻山山系砂防出張所【松川庁舎】

# 火山防災センター

Azumayama Volcanic Bosai Center



吾妻山の噴火に備えて



吾妻山の噴火(昭和52年)気象庁撮影



大穴火口からの噴気(H28.4.6撮影)



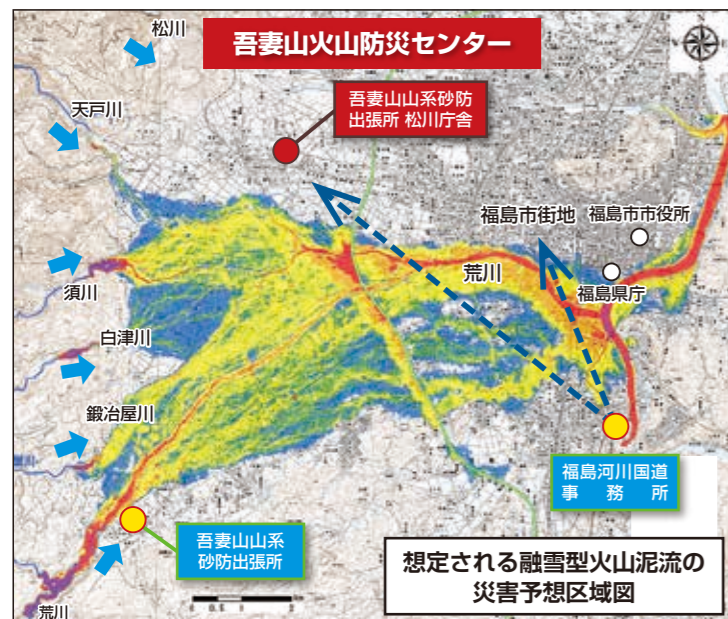
吾妻山火山防災センター  
(吾妻山山系砂防出張所松川庁舎)



国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所

# 1 「吾妻山火山防災センター」整備の経緯

- 吾妻山の過去約7,000年間の噴火履歴調査から中小規模の水蒸気爆発と、大規模なマグマ噴火を繰り返していることが判明。
  - 平成20(2008)年以降に、噴気活動がやや活発化。
  - 被害想定区域内に福島市街地が位置し、噴火時の影響が大きい。
  - この被害を防止・軽減するための計画(緊急防災対策砂防計画)を平成25年に策定。
- 「吾妻山火山防災センター」は、この計画の一環として、平常時から関係機関との連携強化、地域住民への周知啓発などを行う施設として、平成26年3月25日に開所された。



融雪型火山泥流ケース4Sの災害予想区域図(火山噴火緊急防災対策砂防計画書災害予想区域図(H25.1)より)

## 松川庁舎に火山防災センターを整備した理由 <火山噴火時のリスク回避>

大規模な火山泥流が流下して荒川沿いに氾濫被害が発生した場合、泥流氾濫で移動経路が途絶して、**事務所から北方への移動に支障が生じる可能性がある。**

事務所の**災害対応に遅延**が生じることを回避する必要がある。

荒川の北方に位置する**松川庁舎に情報収集などの代替機能をもたせ、火山災害発生時の対応拠点とする。**

# 2 吾妻山火山防災センターの施設紹介

## 1階(ロビー・パネル展示)



火山災害や対策に関するパネル展示、チラシ等の掲示棚



吾妻山・安達太良山の立体模型

航空写真大型パネル(吾妻山～福島市街地)

## 2階(防災センター・砂防学習室)

### 防災センター



100インチ大型モニターやPCによる画像や映像、雨量など各種観測情報の表示、テレビ会議システム(事務所・出張所等)などの機材等を設置

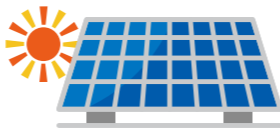
### 砂防学習室



火山・土砂災害のパネル展示、防災関係図書、学習机等を設置

### その他の施設等

- 非常用電源やソーラーパネル等の予備電源
- 大型土のう袋などの資材備蓄倉庫
- 土石流模型実験装置(土砂災害周知啓発用)



100インチ大型モニターやPCによる画像や映像、雨量など各種観測情報の表示、テレビ会議システム(事務所・出張所等)などの機材等を設置

気象庁はH19年以降、吾妻山の「噴火警戒レベル」を運用。(気象庁HPより抜粋)

種類	名称	対象	レベル	火山活動の状況	住民等の行動及び火山噴火への対応	想定される被害等
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域及びそれより火山口側	5(最高)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想されている状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●噴火に伴う融雪型火山泥流が居住地域まで到達、あるいは切迫している。 ●過去5年 有史以降の事例なし
			4(最高)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難等が必要。要配慮者の避難等が必要。	●噴火に伴う融雪型火山泥流が発生し、噴火がさらに継続すると居住地域まで到達すると予想される。 ●過去5年 有史以降の事例なし
警報	噴火警報(火山周辺)	火山口から居住地域まで	3(火山規制)	居住地域の近くまで噴火の影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止や火山規制等の立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難等が必要。要配慮者の避難等が必要。住民は通常の生活。	●小～中規模噴火が発生して、火山口から概ね4km以内に噴石飛散。 ●過去5年 1893年の噴火：噴石が火山口から約1.5kmまで飛散 ●過去5年 1977年の噴火：火山口周辺に降灰 1920年の噴火：噴石が火山口から約0.2kmまで飛散 1950年の噴火：噴石が火山口から約1.2kmまで飛散 ●地震多発や顕著な地殻変動等に、小～中規模噴火の発生が予想される。 ●過去5年 観測事例なし
			2(火山立入規制)	火山口周辺に噴火の影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火山口周辺の立入規制等。住民は通常の生活。	●小規模噴火が発生し、火山口から概ね1.5km以内に噴石飛散。 ●過去5年 1977年の噴火：火山口周辺に降灰 1920年の噴火：噴石が火山口から約0.2kmまで飛散 1950年の噴火：噴石が火山口から約1.2kmまで飛散 ●地震多発や顕著な地殻変動等に、小規模噴火の発生が予想される。 ●過去5年 観測事例なし
予報	噴火予報	火山口等	1(火山口規制)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火山口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火山口内への立入規制等。	●状況により火山口内に影響する程度の噴出の可能性あり。

# 3 平常時の活用(火山活動の静穏期) 火山防災に関する情報収集・発信と周知啓発活動の推進

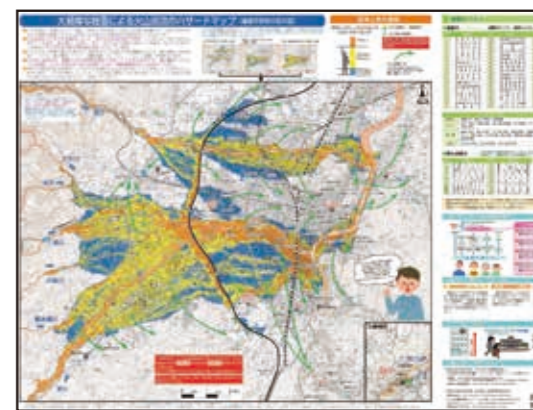
## 火山監視・観測情報の発信

吾妻山の火山活動に伴う火山周辺の画像や、土砂移動現象の観測情報を速やかに関係機関や地元住民に情報発信していきます。



## 警戒避難体制強化の支援

火山噴火緊急防災対策砂防計画の検討で得られた知見をもとに、自治体の警戒避難体制の強化を支援します。



提供資料をもとに福島市が作成した吾妻山火山防災マップ(2014改訂版)▶

## 防災教育・出前講座・広報資料

当センターの施設利用時や出前講座、防災イベントなどの機会を通じて、火山防災知識の周知啓発を行います。

## 資材備蓄

緊急対策で使う大型土のう袋等の資材備蓄を行っています。



火山防災副読本

広報誌「吾妻山砂防通信」



出前講座(土石流模型実験)



出前講座

砂防学習室利用者へのパネルの説明

# 4 非常時の活用(噴火時等)

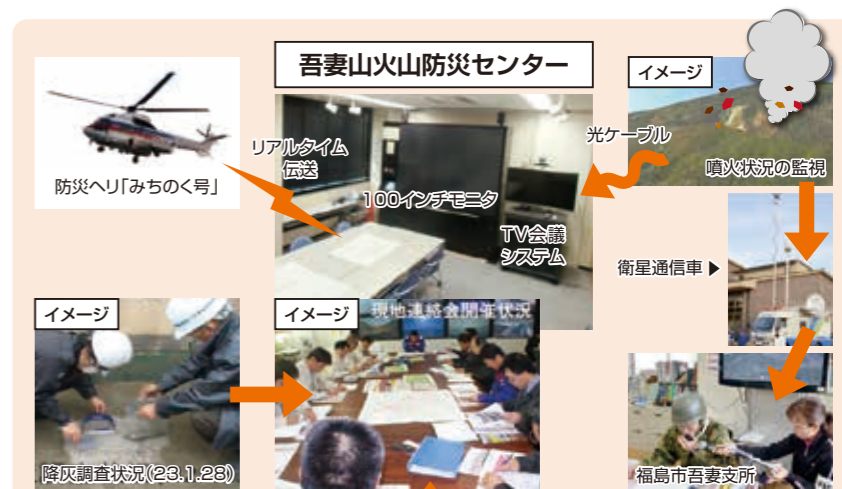
## 緊急時の体制



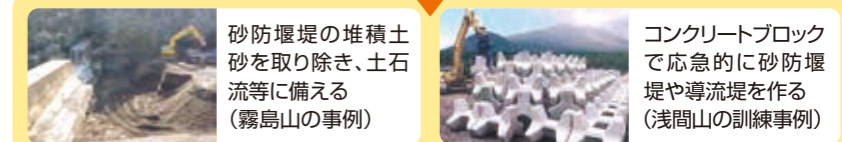
## 関係機関

- 県や市町村、防災インフラなどの関係機関、防災エキスパート、災害協定業者、工事業者等
- 関係機関の防災対応について、連携・調整を行う火山防災協議会

## 緊急調査の実施、監視・観測情報の収集



## 現場の緊急対策



砂防堰堤の堆積土砂を取り除き、土石流等に備える(霧島山の事例)

コンクリートブロックで応急的に砂防堰堤や導流堤を作る(浅間山の訓練事例)